

秋季合宿調査報告

釜無溪谷の植物

奥原弘人・松田行雄

昭和49年9月28、29日の両日、植物研究会の採集会が諏訪郡富士見町釜無溪谷で次の各氏の参加のもとに行われた。参加者は浅原、北村、楯、大木、植松、今井、平出、森山、倉科、保地、坂本、奥原、松田であった。

28日 富士見駅→芋の木→白岩→休戸→花場→開拓→武智温泉のコースで、主に山麓部に露出する石灰岩上の植物に注目して調査した。

コースにそって見られた主な植物、ヤマアゼスゲ、イヌスギナ、ナンブアザミ、ノハラアザミ、フジイバラ、サナエタデ、イヌタデ、ウラゲエンコウカエデ、モトゲイタヤ、カスミザクラ、クマシデ、ウシタキソウ、コシオガマ、ハネガヤ、アズマネザサ、シナノザサ、ヤマゼリ、ヒキオコシ等がみられ、フジアザミは山の斜面に見られる崩壊地、釜無川の川原に大きな頭状花をつけて咲き乱れていた。エゾカワラナデシコ（東京科学博物館でみたところでは苞の形は問わず2段になったものをエゾとしている）、コブナグサ、ササガヤ、オノマンネングサ、ノコンギク、ヨメナ、ハネガヤ、ワレモコウに交じって、※ウラゲワレモコウ、※エゾハタザオが山麓部に見られ、川原にはイヌコリヤナギが、土壌の安定した立地にはシロヤナギが生育し、ヤナギ林を形成していた。

白岩、花場の石灰岩上には※イチョウシダ、クモノスダ、ツルデンダ、※トダイハハコ、※トダイアカバナの好石灰岩植物に交って※シバヤナギ、ヒメウツギ、オオレンシダ、トラノオシダ、イワトラノオ、イワヒバ、ホソバツルリンドウ、イワシモツケがみられた。イチョウシダが花場開拓部落付近にみられたが、山麓部の乾燥する石灰岩上を調査すればまだ発見されよう。

29日 武智温泉→（自動車約8km）→中川合流点→釜無川本谷→横岳峠下1600m付近で昼食、同じコースを下山し、3時富士見駅で解散した。天候に恵まれ、多数の希品を手に、数種の植物の新産地を確認できた喜びに胸をふくらませ、全員無事に帰途についた。

コースにそってみられた植物群落

中川合流点（1200m）付近はブナ帯で伐採が行われたために、伐採をまぬがれたブナが単木で見られるのみで全山ミズナラ林である。1300m付近はようやく人手がはいるのが少なくなったためかイヌブナの萌芽林がめにつくようになり、さらに上流の人手の入らない林域はブナースズタケ群集が1600m付近までみられた。尾根筋で土壌の浅いやせた立地には1300m～1350m付近までツガ林がみられ、1300m付近からコメツガ林に移行し、1400m付近からはコメツガの純林となっていた。川床の不安定は立地には1200m付近まではイヌコリヤナギの低木林がみられ、その上1400m付近まではオノエヤナギ低木林がみられ、それ以上はオオバヤナギ林にかわっていた。谷川に沿って狭い幅にフサザクラ・タマアジサイ群集がみられ、1100m以上の安定した立地には小

規模ながらサワグルミー・ジュウモンジシダ群集がみられた。

コースに沿ってみられた主な植物、ミズナラ、ツガ、ブナ、シナノナデシコ、フジアザミ、バラモミ、ミツバアケビ、クサコアカソ、カリヤスモドキ、ホッスガヤ、ホソエウリハダカエデ、ヤマホロシ、オオバアサガラ、※ナガバノコウヤボウキ、メグスリノキ、クロモジ、カンスゲ、ヒメカンスゲ、ヒメウツギ、エゾハタザオ、アラゲアオダモ、アオダモ、チョウジザクラが道路沿にみられる。1300m付近から釜無川本谷におり何回も徒歩し1500m付近までに見られた植物はフサザクラ、クマシデ、オノエヤナギ、イヌコリヤナギ、ニシキウツギ、ハナйкаダ、ミズメ、ミヤマヤシバシ、ハウチワカエデ、クマヤナギ、ヒメアカバナ、ヤマホタルブクロ、ミヤマシケシダ、オシダ、イワシロイノデ、※トヨグチイノデ、オガラバナ、コハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、オオモミジ、イタヤカエデ、モトゲイタヤ、イヌブナ、コメツガ、タマブキ、※ミヤマアキノノゲシ、ヒメマイズルソウ、※ウラジロウコギ、※アシタカジャコウソウ、※エゾムギ、ヤマタイミンガサ、ヤブレガサ、※ギンバイ

ソウ、フタバアオイ、※ニッコ

ウヒョウタンボク、ミヤマカラマツ、※ミヤマホソエノアザミ、ヒナスミレ、コウシンヤマハツカ、トウゴクミツバツツジ、ザリコミ、※シウリザクラ、※トダイハハコ等であった。横岳峠とりつき地点になるとダケカンバがみられるようになり、コメツガ林に入る。コメツガ林の林床にはレンゲショウマの群落がみられ、ここで植生調査をした。結果は表にまとめ示した。

※印 初確認並びに分布上興味ある種

植 生 調 査 結 果

コメツガ林		サワグ		+	キケンシヨウマ	+	
位置；釜無川本谷上流 横岳峠下1600m		コヨウラクツツジ		+	オオバコギササ	+	
傾斜；東20度		ニッコウヒョウタンボク		+	ツバメオモト	+	
調査面積；20m×20m		株 本 数			ミヤマカラマツ	+	
調査者；奥原・松田		コミヤマカタバミ		+2	ミヤマシダ	+	
高 木 層；20m 被度80%		ヤハズトウヒレン		+	オクモミジハグマ	+	
亜高木層；8m 被度40%		ミヤマフタバラン		+	ミヤマウスラ	+	
低 木 層；2m 被度20%		レンゲショウマ		2.2	ヒメスミレサイレン	+2	
草 本 層；0.5m 被度80%		カニコウモリ		+	ミヤマスミレ	+	
		ミヤマアオダモ		+2	ヘビノネゴザ	+	
		ウリハダカエデ		+	オオバシヨリマ	+	
高 木 層		トウゴクミツバツツジ	+	ナンタイシダ	+	ルイヨウボタン	+
コメツガ	4.4	ウラジロノキ	+	マイズルソウ	+2	コウシンヤマハツカ	+
カツラ	1.2	フクリンウメモドキ	+	ヒメマイズルソウ	+	チョウセンゴボ	+
シナノキ	2.2	ミヤマアオダモ	1.2	イワガラミ	+2		
亜高木層		コメツガ	1.2	サワアジサイ	+		
オオカメノキ	2.2	ヒロハツリバナ	+	ミヤマクマツラビ	1.2		
ウラジロモミ	1.2	ナナカマド	+	オクヤマコウモリ	+		
コメツガ	+	ハウチワカエデ	+	ザリコミ	+		
低 木 層		ハナйкаダ	+	サラシサショウマ	+		
オオカメノキ	1.2	イボタヒョウタンボク	+	カンスゲ	+2		
コハウチワカエデ	+2	アラゲアオダモ	+2	ミヤマイボタ	+		
リョウブ	+2	ニワトコ	+	ヤグルマソウ	+		
サラサドウダン	1.2	ミヤマザクラ	+	クルマハツクバネソウ	+		